

登山月報

平成24年度中高年安全登山指導者講習会
「東部地区」報告 … 1

平成24年度自然保護委員総会報告 …… 3

無雪期レスキュー講習会(東部地区)を長野県で実施 5

第47回 Mountain World …… 6

「山の日」ネットワーク東京会議 …… 7

Giri-Giri Boys Mt.Api Expedition 2012 報告 9

JMA、寄贈図書、編集後記 …… 10

平成24年度中高年安全登山指導者講習会「東部地区」報告

日時 平成24年9月21日(金)～9月23日(日)

会場 石川県白山市 白山山麓
開閉講式：白山国立公園センター
宿泊場所：白峰温泉・御前荘

受講者 64名

主催者 講師・関係者9名、分科会助言者3名(講習会講師兼務2名)、実技講師16名、看護師1名、主管スタッフ60名(実技講師含む)

[経過]

今年の会場は石川県であれば日本三霊山に数えられる白山が要望されることを予想した。例年の開催時期の10月中旬では白山に降雪があり、実技研修の登頂は困難となり、9月中旬の日程を選び了承頂いた。

1月、日山協で開かれた引継会議において、国立登山研修所より受講者50名を要請された。2月初旬に石川県山岳協会に準備室を立ち上げ、石山協加盟団体に対し会期中は登山活動を全て控え、本講習会に協力するよう通達した。県教委に共催申請など行政機関に協力を求めた。毎年6月に開催の県民安全登山の集い

を本講習会のリハーサルと兼ね、本番時のスタッフとして役割分担を予習させた。

7月中旬、日山協に確認したところ僅か9名の応募しかなく、月末の締切りに期待したが34名に留まり、8月24日締切りで再募集をかけた。併せて東部地区の岳連・協会の役員やOBの方々に、手紙・メール・電話攻勢をかけ参加協力を仰いだ。その結果65名の応募があり、嬉しい悲鳴を挙げた。内情は40名+若干オーバーの受講者を想定し、会場や宿泊の手配を進めており、大慌てすることになった。

9月1日、実技研修の白山砂防新道コースの偵察下見を実施し、実技行動におけるタイムリミットを設定し、無線機や携帯電話による通信網の確保を確認した。

最終的に1名のキャンセルがあり受講者64名となる。

▶1日目

〈開講式〉13時より開始

主催として国立登山研修所渡邊雄二所長、日本山岳協会神崎忠男会長、共催として石川県教育委員会ス



スポーツ健康課の森山喜博課長から挨拶を頂き、主管する石川県山岳協会会長村田信親が歓迎の辞を述べた。続いて講義講師(下記)と実技統括リーダー亀田行宣(石山協)の紹介を行った。

〈講義Ⅰ〉「中高年登山者の現状と課題」

講師 北村憲彦氏

(名古屋工業大学教授工学博士、国立登山研修所専門調査委員会委員長)

パワーポイントで図示され、平成23年度の山岳遭難の現況と年齢別遭難者数の調査結果によれば、40歳以上の中高年が78%を占めている。縦走登山者の道迷いに次いで滑落転倒が遭難事故の大半を占めている。単独登山者の5人に1人が死亡・行方不明となっている。中高年に遭難事故が多い理由として、家出並みの不完全な計画など背景に様々な問題点がある。日頃の体力づくりは勿論、行動中のエネルギー消費(食物)と水分補給を徹底し、登山中の体力維持に努めなければならない。登山客ではなく自立した登山者であることを指摘し指導しなければならない。

〈講義Ⅱ〉「中高年登山者の高所医学」

講師 中島道郎氏(医師・元国際登山医学会副会長)

講義内容は高所医学となっているが、中高年世代の受講者には縁遠い話なので「山で体をこわさないために—中高年登山者・ハイカーのための医学知識—」と題して講義された。

健康診断し、熱がある・どこかが痛む・坂道で息切れ・下痢の症状がある時は登山を中止する。持病がある人はホームドクターと相談すること。

登山の服装や用具について解説があり、木綿製品を避けポリエステル系を選ぶこと。登山を志す者は絶対にエレベーターやエスカレーターに乗るべからずなど十訓について話された。バランスを保つため60歳以上はストックを2本ペアで使用する。40歳以下はストック不要と手厳しい指導を受けた。標高2,000m以上で高所環境の影響を受け、2,400m以上は高山



病にかかる危険地帯である。最後に、応急医薬品について薬剤や用法など、ベテラン医師の立場から説明された。

〈講義Ⅲ〉「低体温症と熱中症」

講師 金田正樹氏(トムラウシ遭難事故調査委員)

トムラウシ遭難事故の調査にあたり、生存した登山者や現地を見て判断された具体的で生々しい話に聞き入った。

熱中症は身体の60%は水分であるが、多量の汗をかいて体重の3%を失うと体温調整が利かなくなり発症する。水分と共に電解質(NaCl)を失うので、脱塩水の補正として経口補水液OS-1の服用を薦める。

40℃以上の発熱を伴い意識障害が起きる熱射病、疲労感・脱力感・体温上昇など熱疲労、電解質の喪失による筋肉けいれんの3つの症状を総称して熱中症という。

低体温症とは体温が35℃以下に下がった状態をいう。低体温症を防ぐには対流・伝導・蒸発・放射など体温が奪われる現象を除去しなければならない。35℃で会話に支障を来たすので、回復処置を取らなければ死に至る。34℃で判断力が低下し自身が低体温症なのか分からなくなる。30℃で意識消失し、28℃以下では昏睡状態となり心臓停止する。

山岳遭難において疲労凍死といわれたが、疲労して低体温になるのではなく、低体温になり疲労し亡くなると考えるべきである。

▶ 2日目

〈実技研修〉

- 4時50分 貸切りバスでスタッフ御前荘出発。
- 5時50分 貸切りバスで受講者・講師陣御前荘出発。
- 7時00分 8班に編成し別当出合を出発。
- 11時30分 タイムリミットの時刻。大半の受講者が室堂に到達し主峰の御前峰へ登頂。室堂で応急手当の実技研修を実施。
- 16時30分 別当出合帰着、貸切りバスと路線バスに



分乗。

17時30分 御前荘帰着、休憩・入浴。

19時20分 交換会

好天に恵まれ、砂防新道経由で殆ど受講者全員が白山に登頂し往路を戻る。即席の班編成ながら班毎のまとまりが良く、パーティ意識に好感が持たれた。標高差約1,440m、距離約14km(往復)を9時間で往復のため時間に余裕がなく、実技研修の応急手当法は室堂での休憩時間を利用しての実施となり、物足りなさを感じられたことと思う。

▶ 3日目

〈講義Ⅳ〉「登山中の怪我予防」

講師 早川康浩氏(医師・元国立登山研修所医療講師)
ブログ「YASUHIROのマウンテンワールド」の閲覧数が480万回を超える(10月5日現在)という、驚異的人気の先生である。

日山協が指導するアルパイン登山とは異なり、厳冬の北アルプスでもスキーを駆使してワンデイ(日帰り)されるという超人である。ワンデイの理由は多忙な開業医のため時間が取れないと笑われた。軽量の装備を整え、51歳ながら30代の体力を維持されている。病院勤務時代は4階へ行くときは9階まで上がり4階へ行くとか、1回へ行く時も9階まで登ってから下るとか。

最近各地の自転車ヒルクライムに出場し、1日400キロは楽に走るという。勤務後、トレーニングのため自宅で負荷をかけた自転車を毎日30分漕ぐという。冬期の白山のスライド鑑賞を交えながら楽しい講義であった。去る9月12日には白山を3時間43分で往復された。

〈研究協議会(分科会)〉

できる限り受講者の希望に沿うように分け、石山協のスタッフも分担して出席し、各分科会共40数名で協議した。

●第1分科会



「登山中の病気・怪我予防及び発症(生)時の対応策」

助言者：中島道郎氏 進行：石森長博(石山協)

●第2分科会

「中高年の体力トレーニング」

助言者：早川康浩氏 進行：永井武司(石山協)

●第3分科会

「中高年登山者の遭難事故実態」

助言者：松隈豊氏 進行：高田和彦(石山協)

〈全体会〉

各分科会の発表者(第1分科会：山田千代子、第2分科会：今井大介、第3分科会：清水静治)が、まとめを報告した。

各分科会の協議内容は別途報告書に掲載致します。

〈閉講式〉

国立登山研修所の渡邊雄二所長より受講者代表の西チサ子氏(愛知岳連)に修了証が授与された。日本山岳協会普及担当の仙石富英常務理事から講評があり、主管の石川県山岳協会理事長石森長博がお礼の挨拶を述べた。次年度開催地である愛知県山岳連盟を代表し西チサ子氏が挨拶し、予定された日程を無事終了することができた。

会場や宿泊先など手狭となり、会場や実技研修の移動にご不便をお掛け致しました。遠路参加された受講者のご協力に深く感謝申し上げます。有難うございました。

(石川県山岳協会理事長 石森長博)

平成24年度自然保護委員総会報告

9月8～9日の2日間の日程で、自然保護委員総会が北海道山岳連盟主管のもと、美瑛・上富良野両町の後援を得て国立大雪青少年交流の家で開催され、18都道府県から84(各県58名、主管側26名)が参加した。

第1日目は自然保護委員長会議、総会、視察巡検(火山防災と自然保護)、交歓会。第2日目は検証登山(十

勝・富良野・泥流検証)が行われた。この2日間を通し、山岳での自然保護活動の現状と今後の取組みにつき意見交換が行われた。

▶第1日目

総会に前置きして委員長会議が開催され、本総会議事を円滑に進めることが確認され、委員長間の交流を

図って、山岳環境保全活動を更に活性化させていくことを確認した。

主管岳連の太田紘文副会長の開会宣言で開始された総会は、まず主催者側神崎忠男日山協会長より、UIAAやUAAAの国際会議が予定されているが登山のモラルやマナー、自然保護が議論の中心となる見込み、特にUAAAでは自然保護の面で日本登山界の果たす役割が期待されることになる。また、来年4月からの公益法人化を機に専門委員会間の連携を促進し活動力強化を考えている。今回の総会はこの状況を頭に入れ有意義な意見交換を期待する旨、石倉昭一自然保護委員長より、急速に増加している中高年ツアー登山者や山ガール・山ボーイ等の未組織登山者を日山協に取り込み、山のマナーやモラルを伝えていきたいこと、さらに来年からの組織替えに伴う体制や事業見直しの一環として、記念年の来年の総会は常任委員会が主管して行いたい旨が提案された。

さらに主管代表小野倫夫会長より、北海道岳連60周年の記念として本総会を開催したこと、昨今の登山人口増加による人間のクマの生息域への侵入や人間の生活を豊かにするために「クマの自然」を人間が破壊していることにより、市街地へのクマの出没が増えている中、生物多様性の観点から山と森林の現状を把握、自然環境保護の実態を整理、根本から見直そうとの強い思いを、今大会スローガン「山はみんなの宝だ」の『だ』に込めたと挨拶した。

東日本大震災犠牲者への黙祷後議事に入り、まず松隈豊自然保護委員会副委員長より、前回開催(鳥取総会)以降の事業報告(毎月の委員会や研修会等)、山岳団体自然環境連絡会(6団体)が行っている「山の鳥獣目撃レポート」や尾瀬問題に関する環境省への意見書提出、「山はみんなの宝」憲章の検討、環境省の「総合的山岳環境保全対策推進事業に係る検討会」への出席等の活動が報告され、その内容が確認された。さらに自然保護指導員登録ゼロ県の撲滅への協力を呼びかけ、報告を結んだ。

続いて「各都道府県山岳連盟(協会)活動状況について」に進み、あらかじめ提出された資料に基づいて各岳連から報告がなされた。

クリーンハイクや自然観察会を通

じて、未組織登山者や次代を担う若い世代向けに山の楽しさ・素晴らしさ、山のマナーや山岳環境保全の啓発を図る活動を中心に、登山道整備や、間伐・下刈り・植林活動を通じた森作り、外来生物の駆除、稀少生物の保護保全活動、水場の水質調査や樹木の立枯れ調査、携帯トイレの普及活動等々、その担い手としての自然保護指導員を増やす取り組みと共に、地域の特性に応じて積極的に繰り広げている山を守る地道で継続的な活動が紹介された。併せて報告された脆弱な活動資金、マンパワー不足等恒常的な問題点を克服しながら得た一定の成果は、同様の悩みを抱える岳連への良い情報となった。議事日程の関係で、多岐に亘る活動の一端にしか触れられなかったこと、更に深い討議の余裕がなかったことが残念であった。

最後に、こうした各岳連の数々の実践を踏まえ、日本の美しい山の自然を未来に継承することを誓い今大会スローガン「山はみんなの宝だ」を採択、次期開催地について常任委員会一任が議決された。

議事終了後、会場に近い十勝岳火山砂防情報センター周辺を巡検、火山災害の歴史と防災体制の現状を垣間見、今もなお伝わる大地の熱い鼓動を体感した。

▶第2日目

十勝岳・富良野岳・泥流検証の3コースに分かれ検証登山に出かけたが、風雨が強くなりいずれも登頂を断念、来年の東京での再会を約束し散会した。

最後に、総会を主管頂いた北海道山岳連盟をはじめ、後援を頂いた関係各位に対し、心より御礼申し上げます。

(記 小高令子)



総会会場にて

平成24年度無雪期レスキュー講習会が8月31日(金)～9月2日(日)に長野県山岳総合センターで行われた。totoの助成を受け、縦走・ハイキング、セルフレスキューA、セルフレスキューB、ワークレスキューの4コース42名の受講者で行われた。若い受講者が定着し、女性も多く、活気のある講習会となった。今年から長野県山岳協会が指定管理者となり使いやすくなった山岳総合センターでレスキュー技術の習得・研鑽に取り組んだ。

縦走・ハイキングコースは主任講師を瀬藤常任委員が務め、受講者は14名であった。セルフレスキュー概論の講義の後、補助ロープの活用方法の実技、道路側壁での活用練習、搬送法や救急法の実技として止血、捻挫の処置などの応急手当を行い、最終日は負傷者の応急手当と搬送を行う事故発生のシミュレーションを行った。

セルフレスキューは渡邊常任委員と石田常任委員が主任講師を務め、受講者は18名であった。受講生をレベル差により、2つに分けて講習が行われた。アンカーの作り方や基本的なノット、流動分散、懸垂下降時のワンターンによる制動の実態、自己脱出、自己吊り上げ、リードビレイからの自己脱出、介助懸垂、背負い振り分け搬送などを行った。

ワークレスキューは町田常任委員が主任講師を務め、受講者は10名であった。年々消防の方の参加が増え、基本技術のおさらいの後、フィックスロープの通過方法、ローワードウン、ライジングだけでなく実態に即したななめ下へのローワードウンなどレベルの高いレスキュー技術を研修した。

講師16名とあわせて58名での研修となり、山岳総合センターのほぼ定員一杯で食事や懇親会の準備、後片付けも大変でしたが、センター関係者や受講者の協



運動生理学の話

力も得てスムーズに行えた。風呂が小さく近くの温泉施設まで送迎して頂いたが、かえって好評であった。人工岩場は緩斜面が2面、それぞれの面の半分と小さく、同時に4組程度しか講習できないこと、場所が宿舎から少し離れていることから少し効率が悪かった。また、標高の高い大町でも今年は残暑が厳しく冷房が無いので少し寝苦しいなど歴史のある施設特有の問題もありましたが、長山協・宮本会長、山岳総合センター・杉田所長、村田講習担当にいろいろお世話になり、軽い肉離れをおこした受講生はでましたが、無事終了することができました。(遭難対策委員長 西内 博)



人工岩場での訓練

渡邊玉枝さん日本スポーツグランプリ受賞

今春5月19日、73歳で再度エベレスト登頂を成し遂げ、自身が持つ女性最高齢登頂記録を更新した渡邊玉枝さんが第7回日本スポーツグランプリに選ばれ、9月29日に両陛下ご臨席の第67回国民体育大会役員懇談会(岐阜市)で表彰された。

日本スポーツグランプリは、日本体育協会が制定した顕彰制度で、長年にわたりスポーツを实践するとともに広く国民に感動や勇気を与え、顕著な功績をあげた中高年層の個人又はグループに授与される。山岳関係では中村保さん(平成21年表彰)に次いで2人目。



縦走ハイキングコース

第47回 Mountain World

ネパール・ヒマラヤ 2012春の総括

池田常道

カトマンズでアジアン・トレッキングを主宰するアン・ツェリン・シェルパから2012年プレ・モンスーンの総括リポートが届いた。個々の登山記録はさておいて、このような統計データは現代ヒマラヤ登山の傾向をつかむ一助になると思われるので、以下にその要旨を紹介したい。

登山隊と隊員数

最高峰エヴェレストでは30隊に許可が発給され、外国人登山者325人、シェルパ358人（このほかBCおよびC2のキッチンスタッフ230人）が入山した。隊員のうち178人（55%）とシェルパ222人（62%）が登頂に成功した。ネパール隊は3隊16人とシェルパ15人だった。

エヴェレストのチベット側には14隊208人が入山した。内訳は外国人登山者78人、シェルパ74人、ルート工作隊15人を含む中国およびチベット人56人だった。このうち、外国人登山者とチベットを含む中国人107人、シェルパ58人の合計165人が頂上に立った。また、チョー・オユーでは隊員・シェルパそれぞれ7人が登頂、シシャパンマのそれはゼロだった。

その他の外国人登山者は、観光省が所轄するエクスペディション・ピーク26座に720人、登山協会（NMA）が所轄する、いわゆるトレッキング・ピーク33座に2225人、合計3005人に達した。

その他のピーク

エヴェレスト以外のエクスペディション・ピーク26座には69隊720人（外国人登山者453人、シェルパ267人）が挑んだが、登頂に成功したのは11隊に過ぎなかった。ネパール隊はアピに1隊3人、バーデン・パウエル・ピーク（ウルキマ・チュリ、5890m）に1隊6人が挑んだ。エヴェレストでは47%が外国人登山者、53%がシェルパだったのに比べると、こちらでは前者が63%、後者が37%と比率が逆転する。

ネパール登山協会（NMA）が発給した許可数は519隊に昇った。外国人登山者2225人がガイド、ア

シスタント・ガイド、キッチンスタッフ合わせて2540人を雇用した。外国人登山者の内訳は英国394人、ドイツ336人、オーストラリア218人、フランス212人、米国205人がベストファイブを構成している。（筆者注：日本隊がここにランクインしていないのは、我が国ヒマラヤ登山の長期低落傾向を如実に表している。円高の好環境にあってさえ、ネパールのエクスペディション・ピークや中国、インド、パキスタンでもさほど多くの登山隊が活動しているわけではないからで、往時の隆盛を知る者にとっては隔世の感がある。）

エヴェレスト登頂者累計

1953年の初登頂から昨年まで、世界最高峰に登った人数は隊員・シェルパ合わせて延べ5584人で、複数回登頂者を差し引くと正味3448人だった。

今季ネパール側から頂上に立った400人のうち過去に登頂経験のあった者が192人いるので、新たな登頂者は208人となる。同様にチベット側は165人中66人が登頂経験者で、新たな登頂者は99人だった。

これら今季の数字を加えると、延べ人数は6149人（正味3775人）となり、初めて6000の大台を超えたことになる。（筆者注：ちなみに延べ人数が1000人を超えたのは1998年、2000人は2004年、3000人は2006年、4000人は2008年、5000人は2010年で、最近では2年ごとに1000人ずつ増えている計算になる。この調子で行けば1万の大台を超えるのもあと4年ということか）。

登山隊がもたらした経済効果

ルクラからエヴェレストBCまでの荷揚げに従事したローカル・ポーターは9660人、帰路は5313人だった。エヴェレスト登山隊がネパールにもたらした経済効果は登山料、保険料、ポーター賃、航空運賃、高所用食糧と燃料、酸素ボンベ、その他共同装備を合計して1164万米ドル（約8億9628万円）と推計される。

エヴェレストを除く各エクスペディション・ピークのBCまで荷を運んだポーターは9531人、帰路は5910人におよんだ。NMAピークのそれは往路で1万6850人、帰路では1万785人だった。登山料以下諸経費を合計した経済効果は、エクスペディション・ピークで698万米ドル（約5億3746万円）、NMAピークで790万米ドル（約6億830万円）と推計される。以上をトータルすると2652万米ドル（約20億4204万円）がもたらされたことになる。

「山の日」ネットワーク東京会議

本会など山岳5団体でつくる「山の日」制定協議会は10月3日午後、国立オリンピック記念青少年総合センターでネットワーク東京会議を開き、毎年6月の第1日曜日を候補に、全国の「山の日」をつくることを提案し、将来的には「海の日」と同様に国民の祝日にすることを目指す方針を確認した。

当日は全国の関係団体から約100名が参加し、空調が節電対策された会場はさらなる熱気に包まれた。

まず主催者を代表して同協議会の成川隆顕代表幹事が挨拶。次いで来賓の阿部守一・長野県知事、丸川珠代・参議院議員、星野一昭・環境省大臣官房審議官に続いて5団体を代表して尾上昇・日本山岳会会長が挨拶した。

会議は、作曲家・船村徹氏の「山は心のふるさと」と題した特別講演で始まった。

「海をテーマにした作品を数多く作ってきた者として、『海の日』制定には微力ながら協力した。しかし『海があるのに山がない』なんかへんな気がしてならない。海なし県の栃木で生まれ育った男の偏見ではなく、自

然界の摂理として、太古から信仰的にも実生活的にも山と海は一体なのだ。山が栄えれば海がよこび魚は肥える。海を豊かに守るには、『山』を大切にしなければならぬと、植林活動にいそしむ漁協も多いと聞く。今こそ日本国民が心を一つにまとめて『山の日』をつくりたい。」と熱い思いを訴えた。中禅寺湖を海だと思って育ち、山ほどの塩で固めた鱒が当たり前だと思っていたなど山国で育った面白い逸話も話された。

続いて東京学芸大学の小泉武栄教授が「日本の山はなぜ美しい」のテーマで講演した。

「日本の山は、偏西風による世界一の強風と多雪山地、日本列島の複雑な地質形成、火山の存在、この3つの条件があいまって世界的にも貴重な箱庭的風景を作り出し、日本の山を美しくした。」と語った。

第1部 各地の「山の日」取り組み

司会の萩原浩司・協議会幹事が、全国でどんな取り組みが行われているかを詳しく紹介した。続いて「山の日」を制定し、イベントなどを実施している地域か

掛金が改定
されました

スポーツ安全保険

傷害保険 賠償責任保険 突然死葬祭費用保険



写真提供：空手道マガジン月刊 | UKFPA | 毎月23日発売 | <http://ukfpa.jp/>



5名以上の団体で
ご加入ください

対象となる事故 団体活動中の事故 / 往復中の事故

保険期間 平成24年4月1日午前0時より平成25年3月31日午後12時まで(申込受付は平成24年3月から)

加入区分・掛金・補償金額 掛金が改定されました (団体活動を行う5名以上の方で、加入区分をそれぞれご選択のうえご加入ください。)

加入対象者	補償対象となる団体活動	加入区分	年間掛金 (1人あたり)	傷害保険金額				賠償責任保険 支払限度額 (免責金額なし)	突然死葬祭費用 支払限度額
				死亡	後遺障害 (最高)	入院 (日額)	通院 (日額)		
子ども (中学生以下 (特別支援学校 高等部の 生徒を含む))	スポーツ・文化・ボランティア・ 地域活動	A1	800円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体・財物賠償 合算1事故 5億円 ただし、身体賠償は 1人 1億円	突然死 (急性心不全など) 葬祭費用 180万円 対象と なりません
	上記団体活動に加え、個人活動も対象 上段：団体活動中およびその往復中の補償額 下段：上記以外(個人活動など)の補償額	AW	1,450円	2,100万円 熱中症および細菌性・ウイルス性食中毒の場合、保険金額はA1区分と同様 100万円	3,150万円 150万円	5,000円 1,000円	2,000円 500円	身体・財物賠償 合算1事故 5億500万円 ただし、身体賠償は 1人 1億500万円	
大人 (高校生以上 65歳以上 の方も加入 できます)	文化・ボランティア・地域活動 団体員の送迎、応援、準備、片付け	A2	800円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体・財物賠償 合算1事故 5億円 ただし、身体賠償は1人 1億円	突然死 (急性心不全など) 脳内出血など 葬祭費用 180万円
	スポーツ活動 スポーツ活動の指導・審判	C	1,850円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円		
	子どものスポーツ活動の指導・審判 ※C区分でも加入可	AC	1,300円	1,000万円	1,500万円	2,500円	1,000円		
65歳以上	スポーツ活動 ※C区分でも加入可 ※スポーツ活動を行わない方はA2区分	B	1,000円	600万円	900万円	1,800円	1,000円		
全年齢	危険度の高いスポーツ活動	D	11,000円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		

※同一団体で1口しか加入できません。中途加入する場合、中途脱退する場合も年間掛金を適用します。加入後の加入者の入換え、加入区分の変更はできません。

※危険度の高いスポーツ活動はD区分以外では補償されません。

インターネットからの加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。 [Web](#) スポーツ安全協会 [検索](#)

公益財団法人 スポーツ安全協会

〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-11 TEL 03-5510-0022

保険の詳細内容、資料の請求は、
ホームページをご覧ください。

<http://www.sportsanzen.org>

●資料請求は、インターネットより受け付けております。

この広告はスポーツ安全保険(傷害保険(スポーツ安全協会傷害保険特約・スポーツ安全協会傷害保険特約(学校管理下外担保)・突然死葬祭費用担保特約付普通傷害保険)、賠償責任保険(スポーツ安全協会賠償責任保険特約付常設賠償責任保険およびスポーツ安全協会賠償責任特約(学校管理下外担保)))の概要についてご紹介したものです。ご加入の際は、必ず「スポーツ安全保険のあらし」および「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は保険約款および特約書により、ご不明の点がございましたら(財)スポーツ安全協会または東京海上日動火災保険株式会社までお問い合わせください。

(引受幹事保険会社)
東京海上日動火災保険株式会社 (担当課) 公務第2部公務第1課
TEL 03-3515-4133 (平日9:00~17:00)

(共同引受保険会社)
あいおいニッセイ同和 共栄火災 損保ジャパン 大同火災 東京海上日動
日新火災 日本興亜損保 富士火災 三井住友海上

平成24年1月作成 11-T-09434

らの報告を山梨県(やまなし山の日実行委員会・古屋寿隆)、群馬県(沼田市長・星野巳喜雄)、広島県(ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会・前垣壽男)が行った。

それにしても「山の日」制定の提唱は、既に昭和36(1961)年にあったと云う。本会の前身である全日本山岳連盟が読売新聞社と共催した「立山大集会」登山教室の閉会式で、東京代表から提唱があり、参加者の満場一致の賛同を得て「山の日」制定の提案を決議した、との事だ。

続いて「山の日」制定に取り組んでいる地域からの報告として松本市(副市長・坪田明男)と栃木県(森林整備課長・佐藤基明)から将来の構想について説明があった。

第2部 シンポジウム「山の自然環境保全」

第2部は(公社)環境教育フォーラムの岡島成行理事長が司会を担当。

まず、環境省自然ふれあい推進室の堀上勝室長が、「国立公園利用に伴う山岳環境の諸問題」と題して行政の現場から、山岳地域の自然環境及び環境保全に課題とこれに対する環境省の施策などを述べた。

続いて世界的に高い評価を受けている三重県の速水林業・速水亨代表が「日本の森林資源と環境保全」と題して民の立場から「日本の近世では今が最も森林資源が充実している。人工林の生物多様性を確保しながら、木材生産を続け、産業として成り立つ道を追求し続けなければならない」と美しい森林づくりの抱負を語られた。

第3部 シンポジウム「次世代につなぐ山」

このセッションでは、「山小屋の取り組み・親子登山教室」(燕山荘・赤沼健至)、「教育現場での取り組み・山か学校か」(成城学園・久保昌之)、「行政の取り組み・青少年教育と登山」(文部科学省スポーツ青少年局青少年教育官・藤原一成)とそれぞれの立場から報告が

あり、日本山岳ガイド協会の大蔵喜福理事の司会でシンポジウムが行われた。

赤沼氏は、10年ほど続けている親子登山教室を紹介し、山はゆっくり楽しく登ることが大事と力説した。

久保氏は、中学校で中学2年生の「必修」として50年以上も続けている「山の学校」を紹介。

藤原氏は、青少年の体験活動の重要性と国の施策、体験活動の中での登山の位置づけ、教育集団登山の現状、登山の教育的効果などについて話された。

以上で会議日程は全て終了し、総合司会の尾形が、「我々は、恩恵を受けてきたこの美しい日本の山岳自然を子々孫々まで継承していく責務がある。また、第1部での報告の通りわが国には13府県の地域ごとの『山の日』があり、さらには自然環境保護、森林育成、防災、教育、スポーツ、観光、信仰などの分野で様々な活動が行われている。我々は全国の山に関わる活動をより一層実りあるものにするため、各地での取り組みに学び、情報の共有化や基盤の共通化を深めていきたい。『山の日』は制定アピールに銘記の通り、日々の生活と文化に結び付いた山の恵みに感謝するとともに、美しく豊かな自然を守り、育て、次世代に引き継ぐことを国民の全てが銘記する日である。『山の日』制定協議会では立ち上げから3年目の活動の節目としてここにネットワーク東京会議を開催することができた。これを契機にこの機運を全国協議会へと発展させ、なるべく早い時期に日本の『山の日』が制定されることを望み、この提案に参加者の拍手で賛同いただき、本日のまとめとしたい。」と締めた。

会議終了間近には、日本山岳ガイド協会の会長を務める自民党の谷垣禎一前総裁も駆けつけ「さらにこの運動を大きく広げてほしい」と挨拶した。

最後に本会の神崎会長が参加者に謝意を述べ、終了となった。

(記 尾形好雄)

カテゴリー航空利用。短期間で効率よくキリマンジャロに挑む

**【山麓乗り入れ】キリマンジャロゆったり登頂と
タングレ国立公園サファリ 10日間**

発着地 東京・大阪 旅行代金 ¥522,000~¥542,000

出発日 12/21(金)・12/26(水)・1/11(金)・1/21(月)
2/1(金)・2/18(月)・3/1(金)・3/13(水)

※燃油サーチャージ(2012年8月20日現在:目安約34,000円)が別途必要です。

観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員 ©ボンド保証会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

WARMBIZ

ウォームビズ対応
太陽に包まれたあたたかさ



健康肌着



ひだまり®

KENSEN CO., LTD.

Giri-Giri Boys Mt,Api Expedition 2012 報告

初めに、我々のような金銭的に苦しい遠征隊に海外登山奨励金を援助していただき、感謝の気持ちでいっばいです。また、ネパールではいろいろな面でご協力をしていただいたコスモトレックの関係者の方々、社長の天津二三子様にはこの場をお借りして感謝の意を表したいです。また、アピという貴重な山の情報をご提供していただいた大西氏、岩崎氏には有力なご指導、ありがとうございました。

では実際の遠征の報告をしたいと思います。今回、我々が目指した山は、西ネパールの秀峰アピという7,132mの魅力ある南面の未踏ラインを目指しました。期間は2カ月と長く、いろんな要素が期待できる遠征となったのです。過去の遠征隊の記録からすると、現代の登山隊はキャラバンも簡単になったかもしれませんが、ライトエクスペディションしか経験してない我々には、登れたか、登れないかではなく遠征という大きな括りでは大きな財産となったのです。毎年一度は海外遠征に赴いていますが、毎度得るものは違い、現場の体験はかけがえのないものであると痛感し、今後の遠征につながるキャラバンであったと思います。

アピ南面は96年にスロベニアの強力なクライマーが登っていて、我々はそのラインの右にある壁を計画していました。登山を始めてから高所の壁に挑もうと思いつき、早8年ほどで未熟なりにもいくつかのラインが引け、今回のアピに照準を定めたのです。BCに着いてみるとしっぺ返し食らうわけですが、写真からの憶測でたてたラインは不可能で変更を余儀なくされました。簡単にいかないモノが高所であり、辛いところでもあるが、限られた期間と環境でどうにか糸口を解いていくのも高所登山の面白さなんだなあ〜と思い



アピ南稜。中央左の尾根

もするのです。いろんなすったもんだの末に、順化も終わり、新たなラインも決まりアタックとなりました。実際は南面と西面のコンタクトライン、我々は南稜と名付けた長大な尾根に挑みました。南稜は取り付きが4,200m～西峰7,076m～主峰7,132mと標高差約3,000mもあるビックルート。今回のルートは見た目からも想像できる困難さが尋常ではなかったのも、アルパインスタイルで挑みはするがイメージでは黒部横断のような長期戦になるだろうと踏み、1週間分の食料を用意しました。ルートの構造は、前半1,000mほど岩の要素が強い岩稜帯で、偵察で目測していた平坦な尾根までは9Pで初日を終了。その後は悪天と異常な気温の高さによる雪質の悪化で思うように進まず。日に300mしか高度を稼げずに4日目、5,400mの危険で、困難な箇所を突破できずに敗退となってしまった。1度目は見るからにプロテクションの取れないトラバース箇所、スラブの上に乗った雪を渡り、逆層の岩を越えたがその先にさらなる困難な岩場があり、なおかつ敗退が効かないラインだったので断念しまし



5200m 付近



左より、増本、長門、鳴海



雪稜を行く

た。2度目のラインは岩稜上の正面にあるワイドクラックでした。これに対応できるカムもなく、10mは垂直のオフイズスをノープロテクションで登らなければならず、断念しました。我々の力が現時点では及ばずに悔しい下降となってしまい

ましたが、登れない事で発見できる新たなこともあり、次に繋がるクライミングだったと今は思っています。今回の結果を真摯に受け取り、いつか機が熟す頃にはまたアビに新たなラインを生みたいと考えています。

(記 長門敬明)

〈メンバー〉

増本亮(クライミングファイト)

鳴海玄希(クライミングファイト)

長門敬明(クライミングファイト、秀峰登高会)

ガイド兼コック ハスタ



敗退箇所

キッチンボーイ チョンベ

〈期間〉

2012年4月2日～5月25日

〈キャラバン、登山日程〉

4/2～6	カトマンズ、ブリーフィング、準備
4/7～13	キャラバン、Gokuleshwar~Biale~Markot-Khayekot~Api南面BC3,800m
4/14～26	偵察、順化活動
4/27～5/5	悪天待機、レスト、アタック準備
5/6～11	アタック
5/12～13	BC
5/14～20	バックキャラバン、BC-Khayekot-Markot-Gokuleshwar-Dhangadhi-KTM
5/21～25	カトマンズ滞在、帰国



平成24年度9月(24年9月)常務理事会報告

日時 平成24年9月13日(休)
17:30～19:55

場所 岸記念体育会館103会議室

出席者 神崎会長、八木原副会長、尾形専務理事、西内、佐藤、石倉、高山、水島、相良、谷口、寺内、永井各常務理事

委任 内藤、國松、松元副会長、仙石、北山、堀井常務理事
(18名中12名出席)

1. 専門委員会動静

8月常務理事会以降
(8月7日～9月12日)

【報告】

(1)指導委員会

8月6日(月) 出席者11名

- ア 7月常任委員会議事録の確認
 - イ SC指導員養成講習会について
 - ウ SC主任検定員養成講習会について
 - エ 指導常任委員研修会について
 - オ 登攀研修会(三重)について
 - カ 指導員及び上級指導員養成講習会実施の申請状況について
- (2)国際委員会

8月7日(火) 出席者8名

- ア 第51回海外登山技術研究会について
- イ 海外登山奨励金交付について
- ウ 平成24年度国際委員会常任委員(岳連からの追加推薦)について

(3)自然保護委員会

8月21日(火) 出席者12名

- ア 新任委員の紹介:
西山常芳(都岳連)
- イ コカ・コーラ、グリーンバード・クリーンハイクについて
 - ・第2回を石鎚山で実施(7/25)
 - ・第3回丹沢山(10月)、第4回赤城山(11月)で計画中
- ウ 登山道補修技術研修会の参加報告
 - ・飯豊山(8/18～19) 環境省羽黒環境事務所主催
- エ 自然保護委員総会北海道大会について
 - ・参加申込: 19都道府県62名
(現地スタッフ除く)
 - ・大会資料の作成について
 - ・委員長会議について
 - ・議事進行について
- オ 平成25年度自然保護委員総会

- について
- カ 自然保護指導員の今後について
- キ 山のゴミ実態調査報告(神奈川県山岳連盟)
- (4)遭難対策委員会
8月22日(水) 出席者4名
- ア 山岳レスキュー講習会について
・受講生:43名
・講師割り振りについて
・講習会準備について
- イ 24年度常任委員について
- ウ 日中韓技術交流事業について
- エ レスキュー協議会について
・オーバーナイトテントフォーラムの開催(9/29~30、長瀬)
- (5)競技委員会
8月23日(木) 出席者8名
- ア 8月常務理事会報告
- イ 全国高校総体登山大会報告(8/7~11、苗場・平標山)
- ウ JOCジュニアオリンピックカップ大会報告(8/11~13、南砺市)
- エ ルートセッター全国研修会報告(8/14~16、南砺市)
- オ 2012WC印西大会の進捗状況について
・第3回実行委員会(8/28)
・新市長への表敬訪問(未定)
- カ 第3回全国高等学校選抜クライミング選手権大会について
・第3回実行委員会報告と市長表敬訪問(8/20)
- キ 国体選手参加資格の確認作業について
- ク 2012国体ブロック大会通過都道府県一覧について
- ケ 国体後催祭の準備状況について
- コ 審判員、ルートセッター、競技運営員の登録・更新業務の担当者について
- サ 第8回山岳スキー選手権大会開催要項(案)について
- シ トレラン小委員会から
- (6)普及・ジュニア委員会
9月3日(月) 出席者5名
- ア 中高年安全登山指導者講習会について
・東部地区申込み締め切り:参加者65名
・西部地区募集状況:再募集の要有り
- イ 全日本登山体育大会について
・51回大会(福井)の進捗状況
・52回大会(茨城):テーマの検討及び開催期日

- ウ アンケート集計について
- エ 2012ジュニア登山教室 in 立山の実施結果と今後の課題について
・2013年の予定:
8月11日(日)~14日(水)
・レポート参加者の検討
・低学年の教室開催(春休み)
- (7)指導委員会
9月3日(月) 出席者12名
- ア 8月常任委員会議事録の確認
- イ SC指導員養成講習会について
・8/18~19、25~26、東京・昭島C
・参加者:指導員20名、上級指導員6名
・判定:指導員=9月中、上級指導員=12月中
・ルートセッターの免除科目の見直しについて
・予定:岩手(9/16~17、22~23)、富山(10/13~14、27~28)、愛知(8/18~19、9/8~9)、山口(11月or12月)
- ウ SC講師研修会について
・指導員、上級指導員検定基準検分科会について
・コーチ検分科会について

- エ 指導常任委員研修会について
・AC登攀研修会(鈴鹿)の運営について
・25年度スケジュールについて
- オ 登攀技術研修会の準備について
- カ 指導員の認定
・長野(小口得也、麻田正明、岡和宣、栗原久)の4名を承認
- キ SC指導員養成講習会実施申請(岩手)について
- (8)国際委員会
9月11日(火) 出席者8名
- ア 第26回海外女性懇談会について
- イ 第51回海外登山技術研究会について
- ウ 副委員長の選出について
- 2.その他の重要事項**
(8月7日~9月12日)
[報告]
- (1)平成24年度全国高等学校総合体育大会登山大会 8月7日(火)~11日(土) 於:新潟、苗場・平標山系 神崎会長、高山常務理事
- (2)ジュニア登山教室 in 立山 8月9日(木)~12日(日) 於:国立立山青少年自然の家ほか 本木顧問、内藤副会長、西内、仙石常務理事、

寄贈図書

寄贈本	山と溪谷社 日本勤労者山岳連盟	『フリークライミングのスヌメでもクライマーになれる本』北山真著 『放射線と登山道』日本勤労者山岳連盟編集
雑誌	山と溪谷社 東京新聞出版部 (公財)健康・体力づくり事業財団 福岡山の会 新潟県山岳協会 兵庫県山岳連盟 中華民国山岳協會 (公財)京都府体育協会 (一財)日本万歩クラブ (公財)全日本ボウリング協会 スポーツこころのプロジェクト運営本部 NPO日本オリンピック・アカデミー (社)日本武術太極拳連盟 東京アルコウ会 中国登山協会 長野県山岳協会 群馬県山岳連盟 (株)スクールパートナーズ モンベル 日本勤労者山岳連盟 神奈川県山岳連盟 (公財)日本体育協会 宮崎山楽会 (公社)日本山岳会 横濱山岳会 日本ヒマラヤ協会 東京野歩路会 日本山岳写真協会 (社)国土緑化推進機構 大韓山岳聯盟 (公財)日本体育協会	『ROCK&SNOW』057 『岳人』10月号 No.784 『健康づくり』No.413 『せふり』No.352 『新山協ニュース』第299号 『兵庫山岳』第543号 『中華山岳』230 京都府体協時報 No.110 『帰れ自然へアルク』2012.10・11 『JBCニュース』第490号 9月1日 『笑顔をありがとう』第3号 『JOA Times』第35号 『武術太極拳』2012.9.10 No.275 『アルキつづけて90年 写真で辿るその踏み跡』 『山野 中国戶外』2012.09 『長野県山岳協会ニュース やまなみ』No.206 『山岳ぐんま』第98号 『高校生新聞』第199号 『OUTWARD』No.57 『登山時報』No.452 『ときわ木』158号 2012秋 『Sports Japan』2012.09-10 Vol.3 『創立20周年記念誌』 『山』No.808 9月号 『創立80周年記念誌 生涯登山を目指して』 『ヒマラヤ』No.462 『山嶺』No.991 『日本山岳写真協会ニュース』9月号 『緑の募金だより』2012年秋号 『大山聯』09 vol165 『体協スポーツニュース・体協フェアプレイニュース』2012年9月24日号

- 松隈事務局員
- (3)第15回JOCジュニアオリンピックカップ 8月11日(土)~13日(月) 於:南砺市桜が池CC 神崎会長、北山、高山常務理事
- (4)公益社団法人移行認定申請書提出 8月14日(火)
- (5)ルートセッター全国研修会 8月14日(火)~16日(水) 於:南砺市桜が池CC 北山、寺内常務理事
- (6)近畿ブロック大会 8月18日(土)~19日(日) 於:和歌山 國松副会長
- (7)全国高等学校選抜クライミング選手権大会の加須市長表敬 8月20日(月) 於:加須市役所 神崎会長、高山常務理事
- (8)全国高等学校選抜クライミング選手権大会実行委員会 8月20日(月) 於:加須市民体育館 高山常務理事
- (9)世界ユース選手権 8月29日(水)~9月1日(土) 於:シンガポール 小日向常任委員ほか19名(選手16名)
- (10)レスキュー講習会(無雪期) 8月31日(金)~9月2日(日) 於:長野県山岳総合センター 西内常務理事
- (11)日本山岳写真協会写真展表彰式・祝賀懇親会 9月2日(日) 於:東京ミッドタウンホール&カンファレンス4階 神崎会長
- (12)公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会 9月1日(土)~2日(日) 於:神奈川県山岳スポーツセンター 永井常務理事
- (13)「山の日」制定協議会 9月5日(水) 於:HAT-J事務局 尾形専務理事
- (14)2012WC印西大会実行委員会 9月6日(木) 於:印西市松山下公園体育館高山、北山常務理事
- (15)第67回ぎふ清流国体抽選会

- 9月8日(土) 於:FORUM8 尾形専務理事、高山常務理事
- (16)自然保護委員総会 9月8日(土)~9日(日) 於:北海道・十勝 神崎会長、石倉常務理事
- (17)UIAA登山委員会 9月8日(土)~11日(火) 於:チリ・サンチャゴ 青山常任委員
- (18)東京都山岳連盟役員懇談会 9月11日(火) 於:都岳連事務局 神崎会長、尾形専務理事
- (19)世界選手権 9月12日(水)~16日(日) 於:フランス・パリ 北山常務理事他12選手

3.議事

- (1)平成24年度8月常務理事会議事録の承認について(承認)
- (2)「山はみんなの宝」憲章制定賛同呼びかけ人について(承認)
- (3)「山の日」ネットワーク東京会議について(提案通り承認)
- (4)第52回全日本登山体育大会について(提案通り承認)
- (5)参与候補者の承認について(富山岳連の山田信明、中道伸雄両副会長を承認)
- (6)2012年毎日スポーツ人賞候補者推薦について(個人賞に渡邊玉枝氏を推薦することで承認)
- (7)日中韓技術交流研修会について(人選等を遭対委員会に一任することで承認)
- (8)第37回自然保護委員総会の開催について(関東1都7県主管での東京開催を承認)
- (9)報告事項
 ア 会計月次報告
 イ 移行認定申請書類について(8/14に申請、9/14に第1回ヒアリング)
 ウ HPに掲出している登山計画書の一本化について
 エ 平成24年度専門委員会常任委

- 員について
- オ 第67回ぎふ清流国体山岳競技組み合わせについて
- カ ジュニア登山教室 in 立山の実施報告
- キ ジュニア登山教室(春山篇・那須)の計画について
- ク SC養成講習会のテキスト刊行について

4.後援、協賛等の依頼について

- (1)第27回かながわ県民登山(ハイク)(神奈川県山岳連盟主催)の後援名義(承認)
- (2)第20回日本山岳耐久レース(長谷川恒男CUP)の後援名義(承認)

5.報告

- (1)自然保護指導員の承認
なし
- (2)指導員の認定承認
 ①SC指導員
なし
 ②SC上級指導員
なし
 ③アルパイン指導員
長野の小口得也、麻田正明、岡和宣、栗原久、以上4名を承認。
 ④アルパイン上級指導員
なし

編集後記

9月の連休久しぶりに穂高に入った。沢渡の駐車場はマイカー規制で整備され、山小屋のトイレはチップ制で綺麗になった。山ブームなのだろうか。格好の整った多くの若い登山者に出合った。10月3日山岳5団体による「山の日」東京会議が開かれ、6月第1日曜日が候補に、「海の日」同様国民の祝日を目指す。ブームが本物ならばこの流れを追い風に早期実現を願う。

(広報担当 水島彰治)

登山月報 第523号

定価 100円(送料別)
 予約年間 1,200円送料共
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成24年10月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1の1の1
 岸記念体育会館内
 社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396
 FAX 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL:042-687-4011 FAX:042-687-3980
 E-MAIL: kitatanzasan@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(夜間)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和歌山「時の茶屋」TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL:042-687-4011 FAX:042-687-3980
 E-MAIL: kitatanzasan@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 上野原トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

会々長 杉本憲昭

JMA

守ります。美しい日本の山。

あなたの保険は、
安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。

■平成22年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成23年6月10日)

発生件数 **1,942** 件 (前年対比 266 件増)

遭難者数 **2,396** 人 (前年対比 311 人増)

死者・行方不明者 **294** 人 (前年対比 23 人減)

詳しくは → www.jma-sangaku.or.jp

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

東日本大震災復興支援「とどけよう スポーツの力を東北へ!」

IFSCクライミングワールドカップ 2012 INZAI大会

IFSC CLIMBING WORLD CUP INZAI 2012

Sponsored by HAKKAISAN & MAMMUT

期 日	2012年10月27日(土)～28日(日)
会 場	印西市松山下公園総合体育館 千葉県印西市浦部 275 電話 0476-42-8417
主 催	(社)日本山岳協会(JMA)、国際スポーツクライミング連盟(IFSC)
主 管	W-cup 千葉・印西大会 2012 実行委員会
後 援	文部科学省、(公財)日本体育協会、(公財)日本オリンピック委員会、 千葉県教育委員会、(公財)千葉県体育協会、印西市、印西市教育委員会、 印西市体育協会、北総線沿線地域活性化協議会、毎日新聞社
特別協賛	八海醸造(株)、MAMMUT SPORTS GROUP JAPAN(株)
協 賛	三井住友海上火災保険(株)ほか
日 程	[10月26日] 選手受付 [10月27日] 男女予選 [10月28日] 男女準決勝、決勝、表彰式・パーティ
参加予定	イタリア、英国、オーストリア、オーストラリア、オランダ、カナダ、韓国、スペイン、スロベニア、スイス、台湾、 チェコ、ドイツ、中国、フィンランド、フランス、ベルギー、ロシア他(予定) 約20カ国・地域100名
事務局	(社)日本山岳協会 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館 電話:03-3481-2396 FAX:03-3481-2395 メール:info@jma-sangaku.or.jp HP:http://www.jma-sangaku.or.jp/



●大会当日には、JR成田線・木下駅と北総線・千葉ニュータウン中央駅からシャトルバスを運行します。

救助費用はタダではありません。

山岳保険の加入は、

登山者のマナーです。

日本山岳協会山岳共済事務センター

電話 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397
Eメールアドレス sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

取扱代理店 瀬田工業有限会社

(三井住友海上火災保険株式会社 代理店)

魚沼の酒



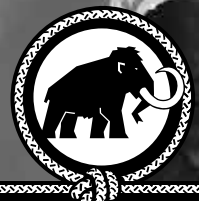
八海醸造株式会社

〒949-7112 新潟県南魚沼市長森 1051 TEL 025-775-3866

<http://www.hakkaisan.co.jp/>



MAMMUT創立
150周年



MAMMUT SPORTS GROUP JAPAN
162-0065 東京都新宿区住吉町2-14 四谷曙橋ビル2F Tel 03 5366 0587
www.mammut.jp

MAMMUT
150 YEARS

Fotos: Robert Bäsch

IFSC CLIMBING WORLD CUP INZAI 2012

Sponsored by HAKKAISAN & MAMMUT



10/27
Qualification

- 女子予選 8:30~
- 男子予選 13:00~

10/28
Semi Final & Final

- 男女準決勝 10:30~
- 女子決勝 14:30~
- 男子決勝 15:30~

*時間は変更になる場合があります、最新情報はWEBでご確認ください。

■ チケット: 27日 大人1000円 中学生以下500円
28日 大人1500円 中学生以下500円
2日通し券 2000円

*販売券はチケットぴあ、主要クライミングジムで発売されます。

千葉県印西市松山下公園総合体育館
〒270-1367 千葉県印西市浦部275 ☎0476-42-8417

*両日とも千葉ニュータウン中央駅と木下駅からシャトルバスが運行されます。



主催: IFSC、(社)日本山岳協会

後援: 文部科学省、(公財)日本体育協会、(公財)日本オリンピック委員会
千葉県教育委員会、(公財)千葉県体育協会、毎日新聞社
印西市、印西市教育委員会、印西市体育協会
北総相互総合地域活性化推進会
協力: 千葉県山岳協会

協賛: 三井住友海上火災保険(株)



協賛: 東京アシスト DJ: Jazzy Sport Crew

<http://www.wc-inzai.jp/>